

大会に参加するにあたっての注意事項

1 大会前日まで

- ◎ 大会に参加する学校関係者（顧問・選手・補助員等）は、健康管理チェック表（大会前）により、1週間前からの検温と体調の確認を行うこと。また、選手・補助員は、参加同意書を作成すること。
- ◎ 各校顧問は、参加者一覧（様式は申込ファイル内）を作成すること。

2 大会当日

〔参加者全般〕

- ◎ 日本スポーツ協会、日本陸上競技連盟、福岡陸上競技協会は「新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」を示しているが、本大会においては、これまでの規定にしたがって運営することから、以下に示す対策等を厳守の上、大会に参加すること。

〔顧問〕

- ① 学校受付において、申込料の支払いと「**健康管理チェック表（大会前日までの分）**」・「**参加同意書（中・高校生のみ）**」・「**参加者一覧表（当日朝の体温を記入）**」を、とりまとめて提出すること。提出がない場合は、大会への参加を許可することができません。
- ② 各校、手洗い、うがいの励行を徹底すること。消毒液の準備をお願いします。
- ③ 各校の待機場所は、メインスタンド、ゴール側芝生席、及び競技場周辺とする。

〔選手・補助員等〕

- ① 腋下体温が37.5度を超える選手は、出場することも、観戦することもできない
- ② 大会参加者は、マスクを着用すること（ウォーミングアップ時、競技中を除く）。
- ③ 場所取りについては、スタンド入り口階段（北側のみ）に各校2名以内で整列し、係の指示に従い、整列順に入場するとともに、隣接校との距離を保って場所を選ぶこと。
(6月4日＝8：10、6月5日＝7：40開門)
- ④ 各校参加者は、待機場所では対面での会話を控え、ソーシャルディスタンスを確保すること。
- ⑤ 出場者は、可能な範囲で、競技時間に合わせて来場し、競技終了次第帰ることが望ましい。
- ⑥ チームによる応援は行わないこと（声を出しての応援は厳禁）。集合等も極力控えること。
- ⑦ 使用するシューズの靴底の厚さの規定は規定どおりとする。その判断がつかない場合は、招集時、競技者係に申し出るとともに、靴底の計測を受けること。
- ⑧ 滑り止め（炭酸マグネシウム）は、必要に応じて個人で準備すること。

〔保護者〕

- 競技場内（スタンド・ゴール側芝生席）への入場は、**保護者のみ許可**します。但し、その際、「**【大会前】体調管理チェック表**」を提出するとともに、検温にご協力ください。スタンド、芝生席に入場する際は、検温を行いますのでご協力ください。

〔報道関係者〕

- 報道関係者は、「**【大会前】体調管理チェック表**」を、受付をとおして、大会本部に必ず提出すること。提出がない場合は、取材・撮影等を許可できない。

3 大会終了後

〔参加者全般〕

- 健康管理チェック表（大会後）により、終了後2週間の検温と体調の確認を行うとともに、
- 体調等に異変が見られた場合は、久留米市陸協理事長（廣木）まで連絡すること。

4 問合せ先

久留米市陸上競技協会 清水（080-1721-9403）

参考(プログラム掲載分)

競技注意事項(第32回大会)

- 1 本大会は、2022年度日本陸上競技連盟規則によって実施する。
- 2 ウォーミングアップ等は、補助競技場を使用すること。但し、投擲練習は禁止する。
- 3 選手変更は、競技開始1時間前までに、総務に届け出ること。
- 4 招集について
 - (1) 招集所は、スタンド下雨天練習場に設ける。
 - (2) 招集時刻は、次のとおりとする。

区分	招集開始	招集完了
トラック競技	競技開始40分前	20分前
フィールド競技	競技開始60分前	40分前

- (3) リレーのオーダー用紙は、招集完了60分前までに、招集所に提出すること。
- (4) 棄権する場合は、招集完了時刻までに競技者係まで届け出ること。
- (5) 選手は、招集所にて本人がチェックを受けること。トラック競技に出場する選手は、腰ナンバーカードを受け取り、パンツ右側後方に付けること。その後、競技開始時間に合わせて、最終点呼を受けること。
- 5 競技用靴は、スパイクの長さは7mmを超えてはならない。走高跳及びやり投げの場合は9mmを超えてはならない。本数は、11本以内であれば何本でもよい。
また、使用するシューズの靴底の厚さは規定どおりとする。その判断がつかない場合、招集時、競技者係に申し出るとともに、靴底の計測を受けること。
- 6 5,000mは18分、3,000mは13分経過後に信号機で合図し、その時点で競技は終了する。
- 7 個人で持参する用器具の検定は、競技開始60分前までに、用具倉庫前(100mスタート地点付近)にて実施する。なお、棒高跳用のポール及びハンマーは、現地とする。
- 8 滑り止め(炭酸マグネシウム)は、競技者個人が必要に応じて持参し使用すること。
- 9 棒高跳のバーの上げ方は、次のとおりとする。

走高跳	(練習)	
中学男子	1m10	1m15-1m20-1m25 ~ 1m45-1m50-1m53 (以降3cm刻み)
中学女子	1m00	1m05-1m10-1m15 ~ 1m30-1m35-1m38 (以降3cm刻み)
一高男子	1m45	1m50-1m55-1m60 ~ 1m80-1m85-1m88 (以降3cm刻み)
高一女子	1m10	1m15-1m20-1m25-1m30-1m35-1m38 (以降3cm刻み)

※ 天候、その他の理由で変更する場合もある。

- 10 フィールド競技の計測ライン及び計測方法、決勝試技について
 - (1) 計測ラインは、特に設けない。
 - (2) 投擲種目は、1cm刻みで計測する。
 - (3) 投擲・跳躍種目での決勝ラウンド試技順序は、記録が下位の選手からとする。
- 11 競技会中に発生した負傷及び疾病について、主催者で応急処置は行うが、以後は各自・各校にて行うこと。(当日は、主催者で傷害保険に加入、熱中症は対象外)
- 12 表彰について
 - (1) 各種目第3位までの入賞者には、賞状を授与する。
 - (2) 男女各1名、最優秀選手に「馬場杯」を授与する。
- 13 その他
 - 「要項」及び「注意事項」に記載した内容に基づき、新型コロナウイルス感染予防対策を十分に行うこと。
 - 大会中は、原則、マスクを着用すること。(ウォーミングアップ時、競技中は除く)
 - 選手等が競技場に入出入りする場合は、100mスタート・ゴール付近のゲートからのみとする。正面玄関の通行は禁止する。
 - 投擲種目に出場する選手は、競技役員の指示に従い、事故防止に留意すること。
 - 応援については、拍手のみとする。(声を出しての応援は厳禁)

○ 大会記録は、2008年（21回）から2017（30回）までの暫定記録である。